

平成26年 9 月 26 日

幕別町議会議長 古川 稔 様

総務文教常任委員長 前川 雅志

総務文教常任委員会報告書

平成26年 9 月 3 日日本委員会に付託された事件を審査した結果、下記のとおり決定したので、会議規則第94条第 1 項の規定により報告します。

記

1 委員会開催日

平成26年 9 月 3 日（1 日間）

2 審査事件

陳情第12号 「ゆきとどいた教育」の前進をもとめる意見書の提出を求める陳情

3 陳情の趣旨

いま学校では、いじめの問題や「全国一斉学力テスト」体制による競争主義教育によって、多くの子どもたちが苦しんでいます。さらに、子どもたちを守るべき教職員も長時間過密労働で追いつめられています。こうした状況を変えていくために、少人数学級や教職員定数増は大きな力を発揮します。

少人数学級を実施している自治体では不登校等の件数が減り、学習に対する理解等も高まり、また、教職員定数増により学校内が落ち着いてきたなど、これらの施策が有効であることが報告されています。

少人数学級実現や教職員定数増を自治体だけの負担に転嫁すると、財政力の違いにより自治体格差が生じることから、教育の機会均等を保障し、教育環境の向上を図るため、国が責任を持って、すべての小・中学校、高校で30人学級を実現すること及び計画的に教職員を増やすことを求めるものです。

4 審査の経過

審査にあたっては陳情の趣旨について論議がなされ、全会一致で結論をみた。

5 審査の結果

「採択」すべきものと決した。